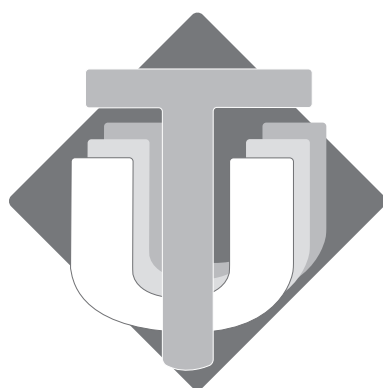


徳島大学

サマープログラム2016報告書



〈編集〉

徳島大学サマープログラム等実施委員会
Summer Program Organizing Committee
Tokushima University

巻頭言

2016（平成28）年度は3部局において徳島大学サマープログラム・サマースクールを開催し、無事成功裡に終了することができました。本事業を連携・調整する立場にあるサマープログラム等実施委員会委員長として、各部局において本事業を企画・実施頂いた担当の教職員の皆様、参加された大学院生・学部学生の皆様には、まずもって敬意を表しお礼を申し上げます。

徳島大学サマープログラム・サマースクールは、海外協定校等から夏休みを利用して学生・教員を招聘し、徳島での短期滞在を通じて各部局において実施されている特色ある教育研究の取り組みや地方都市、徳島の魅力を紹介し、将来の留学先としての徳島大学をアピールすることを目的にしています。同時に本学の学生にも参加を呼びかけ、在学生のグローバル化、キャンパスのグローバル化も目指しています。

徳島大学では、2007（平成19）年度、大学院先端技術科学教育部 国際連携教育開発センターの主催により最初のサマースクールが開催されました。翌2008（平成20）年、本学は文部科学省による「大学教育の国際化加速プログラム」の一つ、「国際共同・連携支援」事業に採択されました。文部科学省支援の下、同年、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部とソシオテクノサイエンス研究部の主催による2コースのサマープログラム・サマースクールが開催されました。2012（平成24）年から国際センターおよび総合科学部サマースクールが実施されるようになりました。この間、2010（平成22）年には国際センター主導により、中国大連理工大学日本語教員研修コースと中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コースが実施されています。また、これらサマープログラム・サマースクールの事務は当初より国際課が中心となり、国際連携教育開発センター事務、各部局事務の協力を得てきました。

2012（平成24）年度にサマープログラム等実施委員会が設置され、以後、本事業は全学的に取り組み、実施されるようになりました。2016（平成28）年度の徳島大学サマープログラム・サマースクールは本報告書にまとめられているとおり、海外からの学生や引率教員77名、本学の学生を合わせ、約150人が参加しました。今後、本事業をさらに魅力的なものにするとともに、その成果が現れ、海外からの留学希望者が増加することが期待されます。また、本学の日本人学生の海外留学意欲が向上することも望まれます。そして本事業が徳島大学のグローバル化教育の推進に少しでも役立てば関係者にとって望外の喜びとするところです。

最後に本年度のサマープログラム・サマースクールの実施にご尽力を賜った各部局の教員各位、事務職員の方々に深く感謝申し上げます。

平成29年3月
サマープログラム等実施委員会委員長
金 成海

内容

1	サマープログラム2016	1
2. 1	総合科学部サマープログラム.....	5
2.1.1	目的.....	7
2.1.2	日程.....	8
2.1.3	講義概要.....	8
2.1.4	エクサカーション	10
2.1.5	修了証書.....	12
2.1.6	アンケート集計結果.....	13
2.1.7	成果報告.....	14
2. 2	先端技術科学教育部サマースクール.....	15
2.2.1	目的.....	17
2.2.2	日程.....	17
2.2.3	講義概要.....	20
2.2.4	エクサカーション	20
2.2.5	修了証書.....	21
2.2.6	アンケート集計結果.....	22
2.2.7	成果報告.....	24
2. 3	国際センターサマースクール「徳島であおう！」	27
2.3.1	目的.....	29
2.3.2	日程.....	29
2.3.3	講義・活動概要.....	32
2.3.4	エクサカーション	33
2.3.5	修了証書.....	35

2.3.6	アンケート集計結果.....	36
2.3.7	成果報告.....	43
3	総括.....	45
4	今後の課題とまとめ.....	46
5	担当者一覧.....	49
	サマースクールTシャツ.....	51

1 サマープログラム2016

1. 1 サマープログラムの目的

1. 徳島大学を海外にアピールし、海外から見た本学の価値を高める
2. 学術交流協定校との関係を強化する
3. 将来の優秀な本学留学生確保につなげる
4. 徳島および日本を知ってもらい、徳島・日本を身近に感じてもらう
5. 徳島大学の教員、職員、学生の国際化を図る
6. 英語による授業を拡充する

1. 2 沿革

(1) 2008 (H20) 年度

6月 文部科学省「平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援；交流プログラム開発型）」に「英語力を基盤とする新国際化教育プログラムーサマープログラムと短期海外派遣による国際相互交流の推進ー」が採択された。

8月「サマープログラム2008」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～2009 (H21) 年3月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 別研究プログラム
- ② リサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(2) 2009 (H21) 年度

8月「サマープログラム2009」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～12月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② サマーリサーチプログラム

③ 短期語学研修プログラム

(3) 2010 (H22) 年度

8月「サマープログラム2010」として4コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)
- ③ 中国大連理工大学日本語教員研修コース (新蔵地区・常三島キャンパス)
- ④ 中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コース (常三島キャンパス)

(4) 2011 (H23) 年度

7月～8月の間に「サマープログラム2011」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)

(5) 2012 (H24) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(6) 2013 (H25) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(7) 2014 (H26) 年度

7月～2月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)

(8) 2015 (H27) 年度

7月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② 医歯薬学研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)

(9) 2016 (H28) 年度

7月～8月の間に3コースを実施した。

- ① 総合科学部サマープログラム (常三島キャンパス)
- ② 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (常三島キャンパス)

1. 3 実施概要

開講コース	総合科学部サマープログラム 2016 (平成 28) 年 7 月 12 日～8 月 8 日
	先端技術科学教育部サマースクール 2016 (平成 28) 年 7 月 24 日～8 月 5 日
	国際センターサマースクール「徳島であおう！」 2016 (平成 28) 年 8 月 4 日～8 月 13 日
	各コースともに、海外の学生を対象とした英語又は日本語による短期集中講義等を実施して、本学の学生を共に参加させる。
開講場所	徳島大学 常三島キャンパス

対象学生	・ 学術交流協定校等からの留学生・教員 ・ 本学学生
主な内容	担当教員による講義、課外活動

1. 4 単位の認定

徳島大学で短期集中講義等を実施し、受講者に修了証書を発行

受入留学生：派遣元大学で将来単位認定が可能〈全コース〉

徳島大学生：

先端技術科学教育部サマースクール 国際先端技術科学特論 I 2 単位

2. 1 総合科学部サマープログラム

**Summer Program of Tokushima University,
Integrated Arts and Science Course,
Liberal Arts and Sciences Course**

2. 1 総合科学部サマープログラム

2.1.1 目的

グローバル化が進行する中で、異文化に対する理解力・コミュニケーション力を身につけることが必要になっている。さらに、新しい時代に必要な価値観を創造して、グローバル社会で活躍できる人材の育成が、大学改革に課せられた急務の課題である。そこで徳島大学総合科学部では、サマープログラムを実施して、世界の学生たちと本学の学生たちとの国際交流の機会を提供している。7月12日～8月8日の第I期（教養教育コース）と7月19日～8月8日の第II期（総合科学コース）の2グループに分かれ、それぞれのグループにおいて、本学に在籍する学生とサマープログラム参加者が、総合科学部および教養教育院の授業、「グローバル社会」「持続可能な社会」「世界の中の日本語」、「日本語の敬語」、「日本語演習」、「日本語表現の基礎」等の授業で、グループで議論を含めた共同の学習経験をする。

また、授業時間外における課外活動ではピア学習を行い、お互いの言語や文化を学びあう。このような学生同士の対話を通じて、コミュニケーション力と異文化理解を深める。グローバルな視点を育成するために、多様な国の学生が参加できるプログラムとした。特に台湾からの参加者中心の第II期グループにおいては、総合科学部学生にとって、身近な隣人であり同世代でもある台湾大学生との交流を通じて、相互文化についての理解を図る。プログラム学生にとっては、台湾で学んだ日本語・日本文化を実際に使用・体験することで、自身の学びを確認する。

サマープログラムは大学のキャンパス内だけでなく、脇町高校、城東高校の生徒との交流、徳島城博物館、徳島新聞社見学、鳴門、上勝町、脇町といった郊外に出かけ、そこでの暮らしに触れ、徳島における諸課題を知る場を設け、その解決方法について様々な国の学生が議論できる場とした。諸課題を解決するための手段のひとつとしてボランティアがあげられる。Volunteer experience in local communityを講義名の副題としており、エクスカージョンにボランティア実践を盛り込むことで、地域社会における諸課題を体験的に学習できるプログラムとした。そうした諸課題に対して、様々な国からの留学生が自国の課題解決法をお互いに紹介しあい、提案する議論の場を設けることで、地方の課題をグローバルな視点から考える、すなわちグローバルな視野を持つ機会としたい。

このプログラムで外国の大学生との議論をした本学に在籍する学生は、異文化理解に対する興味を高め、交換留学などの制度による留学に興味をもつようになることが期待される。このようにして、日本人学生と諸外国の学生との友好関係を深め、プログラムで培われたグローバル社会への対応力を、自主的な活動や、交換留学に対する動機付けへ発展させることで、留学生も本学に在籍する学生も共にグローバル社会に対応できる人材として育成すること目的とする。

2.1.2 日程

期間 2016年7月12日(火)から8月8日(月)まで
第Ⅰ期(教養教育コース)7月12日～8月8日 (5名)
第Ⅱ期(総合科学コース)7月19日～8月8日 (5名)

参加人数 総合科学部短期留学生 10名
【中国】 2名 青島理工大学2名
【台湾】 8名 開南大学2名
育達科技大学6名

全体スケジュール

7月11日(月) 参加登録
7月12日(火) 開会式(10:25-11:55)
8月1日(月) 学生インターナショナル・カンファレンス in けやきホール(1日目)
8月2日(火) 学生インターナショナル・カンファレンス in けやきホール(2日目)
8月4日(木) 第Ⅱ期グループ発表会
8月8日(月) 閉会式

2.1.3 講義概要

全学共通教育の共創型学習科目において「Global Communication・Volunteer experience in local community」を集中講義の授業として開講し、留学生と本学に在籍する学生がともに受講できるようにした。その他の本学在籍生との合同授業には、次のものがある。「グローバル社会」「持続可能な社会」「世界の中の日本語」、「日本語の敬語」、「日本語演習」、「日本語表現の基礎」

【スケジュール】

Tue 12 July

8:40~10:10 [L] Volunteer / Ohashi
10:25~11:55 Orientation 2
14:35~16:05 [L] Japanese / Murakami

Wed 13 July

8:40~10:10 [L] Introduction to Tokushima Univ. / Kubota
10:25~11:55 [L] Cross-Cultural Communication / Misumi & Ohashi (Inter 301)
14:35~16:05 LEC (Language Education Center)

Thu 14 July

8:40~11:55 [L] Indigo Dyeing (1) / Satoh (3-Biology Room)
14:35~16:05 LEC (Language Education Center)

Fri 15 July Excursion, Castle Museum
 9:00~11:50 (Excursion) Castle Museum / Saito
 12:50~14:20 [L] Tokushima & Beethoven symphony No.9 / Ishikawa (6-201)
 14:35~16:05 [L] Global Communication with Citizens / Ohashi (6-201)

Tue 19 July
 8:40~10:10 [L] Volunteer / Ohashi
 12:50~14:20 [L] The Shikoku Pilgrimage route (Part 1) / Moreton
 14:35~17:50 (Practice) Traditional Medicine

Wed 20 July
 8:40~10:10 [L] Innovation / Kitaoka
 10:25~11:55 [L] Cross-Cultural Communication / Misumi & Ohashi (Inter 301)
 14:35~17:50 Citizen Symposium

Thu 21 July Excursion, WAKI Town
 Traditional Medicine / Ohashi (WAKI Town)

Fri 22 July Excursion, Volunteer
 10:00~14:20 [L] Medical Ethics / Watanabe (3-Biology Room)
 14:35~16:05 [L] Global Communication with Citizens / Ohashi (6-201)
 16:20~21:30 Volunteer YOSHINOAWA Festival

Mon 25 July
 8:40~10:10 [L] Reading and Writing in Tokushima / Kamata
 10:25~11:55 [L] Medical Care System / Ohashi
 12:50~14:20 [L] Tokushima and Germany: Bando Prison Camp / Guenther
 14:35~16:05 [L] Japanese / Murakami

Tue 26 July
 8:40~10:10 [L] Volunteer / Ohashi
 12:50~14:20 [L] The Shikoku pilgrimage route (Part 2) / Moreton
 14:35~16:05 LEC (Language Education Center)

Wed 27 July
 8:40~10:10 [L] Innovation / Kitaoka
 10:25~11:55 [L] Cross-Cultural Communication / Misumi & Ohashi (Inter 301)
 14:35~17:50 LEC (Language Education Center)

Thu 28 July Excursion, The Shikoku pilgrimage route, Tairyuji (21th)
 8:40~17:00 (Excursion) The Shikoku pilgrimage route / Moreton

Fri 29 July Excursion, Tokushima and Germany: Bando Prison Camp
 8:40~17:00 (Excursion) Tokushima and Germany: Bando Prison Camp / Guenther

Mon 1 August
 10:00~16:00 International Student Conference (Keyaki Hall)

Tue 2 August
 8:30~12:30 International Student Conference (Keyaki Hall)

Wed 3 August

10:25~11:55 [L] Cross-Cultural Communication / Misumi & Ohashi (Inter 301)

Thu 4 August **Excursion / Kamikatsu Camping (Day 1)**

8:30~18:00 Marukiya Farm, Trash recycle center, Stage performance at theater

18:00~ Exchange party

Fri 5 August **Excursion / Kamikatsu Camping (Day 2)**

9:00~15:00 Volunteer (tea picking, forestation), Mountain climbing

Sat 6 August **Excursion / OSAKA**

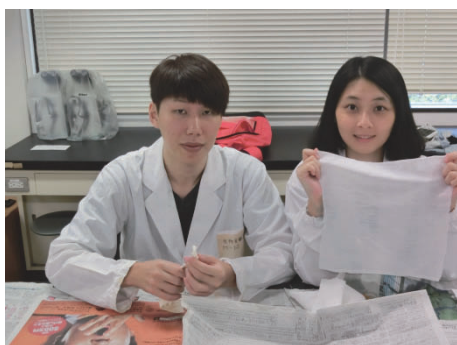
Ferry bound for Wakayama. Train bound for Osaka

Sun 7 August **Excursion / OSAKA**

9:00-17:00 OSAKA

Mon 8 August **Excursion / OSAKA**

Closing



2.1.4 エクスカーション

7月21日 (木) 脇町

Thu 21 July: WAKI Town

7月22日 (金) 徳島城博物館・大塚製薬

Tue 22 July: Museum of Castle

7月22日 (金) 吉野川フェスティバル

Fri 22 July: Volunteer YOSHINOAWA Festival

7月28日 (木) 四国遍路

Thu 28 July: The Shikoku pilgrimage route

7月29日 (金) 坂東俘虜収容所

Fri 29 July: Bando Prison Camp

8月4日(木)～5日(金) 上勝
8月6日(土)～8日(月) 大阪

Thu 4 - Fri 5 Aug: Kamikatsu Camping
Sat 6 - Mon 8 Aug: Osaka

○徳島城博物館、四国遍路、人形浄瑠璃



○上勝キャンプ



No. 550



**FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES
TOKUSHIMA UNIVERSITY**

1-1 Minamijosanjima, Tokushima 770-8502 Japan

5 September, 2016

CERTIFICATE OF COMPLETION

Name:

Date of Birth:

This document certifies that the student mentioned above has successfully completed the following programs.

Program

Title: Summer Program of Tokushima University

Course: Integrated Arts and Sciences course

Professor: OHASHI, Makoto; MURAKAMI, Keiichi; KUBOTA, Yuka;
GEHRTZ-MISUMI, Tomoko; SATO Takanori; ISHIKAWA,
Eisaku; KITAOKA, Kazuyoshi; WATANABE, Minoru;
KAMATA, Suzanne Linn; GÜNTHER, Dierk Clemens;
MORETON, David; SAITO, Takahito

Period: 11 July 2016 – 8 August 2016

Hours: 80h



Signature

HIRAI, Shogo
HIRAI, Shogo
Dean

Faculty of Integrated Arts and Sciences
Tokushima University

2.1.6 アンケート集計結果

参加目的

- ・今後の学習のために、前もって日本の学習方法を知っておく
- ・日本文化の体験と日本への理解
- ・日本人や他国の学生と話をし、友人をつくる
- ・日本語のさらなる上達

サマープログラムの成果

- ・グループで協力して、自分の考えを持ち、みんなに伝えること
- ・友人を得ることで学習することができた
- ・日本語のリスニング・スキルが上昇した。
- ・自国では日本語の能力は十分だと思っていたが、まだまだであることを実感した。
- ・会話は少しずつできるようになった。
- ・さらに日本語、日本文化の学習を深める動機となった
- ・日本語の学習を開始する／進めることができた
- ・コミュニティーと協働することの大切さを知った
- ・新たな学習（藍染、哲学）に刺激を受けた

印象に残ったプログラムとその理由

- ・すべてのプログラムにおいて、多くの優れた人と知り合い、チームワークで協力して、社会的・精神的な面で良い。
- ・市民との交流を通じて、日本の文化と風習を容易に知ることができた。
- ・エクスカージョンにおける見学を通じて、徳島の歴史と自然を学習できた。

改善すべき点

- ・個人でのプレゼンテーションが少し難しかった。
- ・科学のプレゼンテーションがあったが、自分は日本語専攻なので理解できなかった。
- ・四国の歴史と文化をもっと知りたい。
- ・阿波踊りに参加したい。
- ・英語による日本人以外の学生との交流・発表・話し合いに困難を感じた。
- ・もっと日本語の授業が増えると良い。
- ・英語が苦手であるため、英語での授業が難しかった。

サマープログラムを通じて、今後の学習・進路にどのような影響があったか

- ・指導的な人物になりたいと思った。
- ・大学院生になりたいと考えている。
- ・再び日本での留学を検討している。

2.1.7 成果報告

教養教育院のグローバル化教育科目にサマープログラムの留学生を受け入れる集中講義「Global Communication - Volunteer experience in local community」を開講した。本学に在籍する学生も受講でき、「グローバル社会」「持続可能な社会」などのテーマについての議論を行った。こうした取り組みは、参加者が内容の多様性に触れるだけでなく、多様な人との交流の大切さに触れる契機となっている。

集中講義は前期試験期間と重なるため、受講はしないものの、プログラムに参加を希望する学生を部分的に受け入れることができるように配慮した。その一つはエクスカーションへの参加である。エクスカーションに留学生と同行することで、長時間のコミュニケーションが可能である。また、夕方にしんくら会館にて **Cooking** を実施した。留学生と日本人学生が協働して夕食を作り、夕食を共にすることを通じて、長時間の会話を行う。部分的ではあっても、長時間にわたる交流を通じて、本学在籍者が多文化に対する興味、さらには留学に対する興味を高めることが期待される。実際、教養教育では、モンゴル、タイ、インド、スロベニア、米国への短期留学を行う授業を実施しているが、これらの授業の受講者の多くは、本プログラムに参加している。

留学生は日本の文化体験を通じた学習の希望が多い。そこでエクスカーションについては、日本の自然・文化・歴史・暮らし・環境・地域課題などを総合的に学習することができるように配慮したプログラムを準備した。体験の後に、考え・議論する視点として、授業ではテーマを「ボランティア体験」とし、校内の草抜きなどを行った。ゴミ・リサイクルなどの環境問題について考えるためのエクスカーションとして、上勝町日比谷ごみステーション見学などを実施した。健康・医療・食料に関する課題を発見するために、脇町訪問、自然農園訪問等を実施した。

体験を通して知ることの次のステップとして、徳島の諸課題に気づき、世界各国で実践されている課題解決の方法をお互いに学びあうことにある。まずは教室での議論の場を設けた。さらには2日間にわたって実施された学生インターナショナル・カンファレンスにおいては、学習成果を発表するとともに、「環境」「健康」「教育」といったテーマをグループで議論し、グループの意見を発表する場を設けた。教室とは異なる空間において長時間を共有することから学生間のコミュニケーションがより図られるものとなった。

学生インターナショナル・カンファレンス in けやきホール(8/1-8/2)と上勝エクスカーション(8/4)は先端技術科学教育部コースとの合同企画である。教養教育コースは学部生を対象としているが、先端技術科学教育部コースは大学院生であり、議論をする・まとめて意見を発表するという場面で、大学院生は主体的に参加することに長けており、そうしたスキルを学ぶという点においての学習効果があった。上勝キャンプの農村舞台では、参加者それぞれが自国の文化(歌、ダンス、劇など)を披露するのであるが、教養教育コースにはない国からの参加により多様な文化を直接体験できる機会となった。

本プログラムは2012年より開始して、5年目となる。この間に、プログラムの企画と実施そして反省点を踏まえて、より多くの教員がプログラムに携わり、多様な観点から内容の充実が図られた。特に学生インターナショナル・カンファレンスのように多くの学生が参加する企画において、より教育効果が高く、そして学生の満足度の高いプログラムを提供できていると考えられる。さらには地域社会の課題をボランティアの視点で体験的に学習していくという教育環境の充実が、本学の国際化推進に寄与すると考えられる。

2. 2 先端技術科学教育部サマースクール

International Affiliated Double-Degree Program Summer School

2. 2 先端技術科学教育部サマースクール

2.2.1 目的

本プロジェクトでは例年 7 月最終週から 8 月第 1 週に開講が予定されているサマースクールに、上勝町で行われているベンチャービジネスに関するインターンシップと工学と理学を融合させた STEM (Science Technology Engineering and Mathematics) 講義を組み込み、先端技術科学教育部、総合科学教育部、教養教育院が共同して環境・エネルギーを意識したサマープログラムを提供する。専門の英語による講義とともに、上勝町の『葉っぱビジネス』を題材に環境ビジネスの仕組みや考え方を体験させ、日本人学生、外国人学生を交えて討論させることで、日本人学生にはこれからの工学を支えていく高度専門職業人に必要な経営センス、英語によるコミュニケーション能力に加え、工学と理学を融合させた知識・経験に基づく問題解決力を身につけさせる。また、本年度は留学生並びに在校生が現在行っている研究をパワーポイントで紹介する学生発表会を開催し、学生間で研究に関するディスカッションを行う場を提供する。外国人留学生には徳島の中の日本らしさを体験させ、日々の日本社会に息づく環境調和と理工学との関わりを意識させることで、ダブルディグリープログラムなどで徳島大学大学院先端技術科学教育部に留学する動機付けを与える。

2.2.2 日程

期間 2016 年 7 月 24 日 (日) ~ 8 月 5 日 (金)

参加人数 66 名

Nanotechnology and Material Science Course	32 名
Electrical Engineering and Information Science Course	34 名

大学別内訳

Harbin Institute of Technology	8 名	}	中国	15 名
Xi'an Jiaotong University	4 名			
NanTong University	2 名			
Qingtao University of Science and Technology	1 名			
National Taiwan University of Science and Technology	5 名	}	台湾	7 名
Southern Taiwan University of Science and Technology	2 名			
North Maharashtra University	3 名	}	インド	4 名
Dr. Babasaheb Ambedkar Marathwada University	1 名			
Universiti Teknikal Malaysia Melaka	2 名		マレーシア	2 名
徳島大学	38 名			

Schedule: *Summer School 2016*

First Week				
July 24	16:00 18:00	Registration		
July 25	10:00 10:30	Opening Ceremony	Yasuhiko Kawamura (Dean of Engineering) Toshihiro Moriga (Director, CICEE)	Opening Speech Opening Remark
	10:30 11:30	Common Lecture 1	Wu Yunong (CICEE)	Summer School Orientation: Program and Information
	13:00 14:30	Common Lecture 2	Satoshi Hashimoto	Basic Japanese for Communication
	14:40 16:10	Common Lecture 3	Hirokazu Miyoshi	Radioisotope and Radiation
July 26	10:25 11:55	Common Lecture 4	Ri-ichi Murakami	Physical and Chemical Properties of Nanomaterials
	12:50 14:20	Common Lecture 5	David Moreton	The Shikoku Pilgrimage Route
	14:40 16:10	Common Lecture 6	Makoto Ohashi	Religion and Science
July 27	10:25 11:55	Common Lecture 7	Chen-Chia Chou	Intelligent Materials and Their Roles in Innovative System Design
	12:50 14:20	Special Lecture 1	Pankaj Koinkar (Nano & Mat Sci. Course)	Introduction to Basic Aspects of Nanomaterials and Nanotechnology
			Hiroyuki Yotsuyanagi (EE and IS Course)	Testing and Testable Design of Logic Circuits
	14:40 16:10	Special Lecture 2	Mohd Warikh Bin Abd Rashid (Nano & Mat Sci. Course)	Synthesis, Properties and Application of Ceramic Materials
			Masatake Akutagawa (EE and IS Course)	Signal Processing in Biomedical Engineering
July 28	10:25 11:55	Common Lecture 8	Masao Nagase	Graphene
	12:50 14:20	Common Lecture 9	Yasuhide Ohno	Sensor Applications Based on Graphene
	14:40 16:10	Common Lecture 10	Masatsugu Oishi	Global Environmental Problems and Renewable Energy
July 29	10:00 12:00	Student Presentation	Yasuzawa, Nishio, Koinkar	
	13:00 14:00	Student Presentation	Yasuzawa, Nishio, Koinkar	
	14:30 16:00	Laboratory Visits	Nano & Mat Sci. Course and EE and IF Course	

July 30	17:00 21:00	Local Sightseeing	Free time (Tokushima Central Park, Tokushima Castle Museum, Hyotanjima Boat Tour)
July 31	Free time		

Second week					
August 1	9:00 12:30	Student Conference	Student's Presentations 1	- Introduction of a project for sustainable society - Health Care system in Local Community	
	13:30 15:30		Group Discussion	- Introduction of a project for sustainable society - Health Care system in Local Community	
	15:30 16:30		Poster presentation	- Introduction of a project for sustainable society - Health Care system in Local Community	
August 2	9:00 10:00	Student Conference	Student's Presentations 2	Wisdom of Local Community	
	10:00 11:00		Group Discussion	Wisdom of Local Community	
	11:00 12:30		Poster presentation	Wisdom of Local Community	
August 3	7:00 10:00	Field trip 1: (Osaka tour)	Departure from Tokushima University Arrival at Osaka		
	10:00 12:30		Take photo Visit Osaka castle and museum		
	12:30 17:00		Lunch Free activity		
	17:00 20:00		Departure from Osaka Arrival at Tokushima University		
August 4	8:30 9:15	Field Trip 2: (Kamikatsu Town tour)	Departure from Tokushima University Arrival at Natural Farm Kamikatsu Town		
	10:00 10:30		Departure from Natural Farm Arrival at Zero Waste shop (Kuru Kuru Shop)		
	11:15 11:45		Departure from Zero Waste Shop Orientation at Fureai hall		
	12:00 13:00		Lunch Preparation for group performance		
	13:30 15:15		Group Performance Exchange Meeting and Discussions with local residents		
	16:00 17:00		Departure from Fureai Hall Arrival at Tokushima University		
August 5	9:00 10:00	Field Trip 3: (Shikoku Pilgrimage Route tour)	Departure from Tokushima University Arrival at Tairyuji (21th)		
	10:00 12:30		Tairyuji (21th) Lunch		
	13:00 13:45		Byodoji (22th)		
	14:30 15:15		Tatsueji (19th)		

15:15 16:00	Departure from Tatsueji Arrival at Tokushima University
16:30 17:00	Closing Ceremony
18:30 20:30	Intercultural Party – BANQUET (THE PACIFIC HARBOR)

2.2.3 講義概要

実施期間 2016年7月24日（日）～8月5日（金）

大学院先端技術科学教育部が開講しているサマースクールは、平成28年度では本教育部に所属するダブルディグリーコースの学生を加え66名の受講生で開講した。本年度は、例年行っていた海外からの受講生への補助金の提供を行わなかったが、アジアの国々から学术交流協定校を中心に28名の外国人学生を迎えた。7月25日に開講式を行い（写真1）、簡単な日本語表現・会話の講義、四国圏独自の歴史・文化であるお遍路文化の講義、蔵本地区から講師を招いてのヘルス・バイオサイエンスに関連する講義、及び工学と理学を融合させたSTEM講義など共通講義の後、ナノテクノロジーコースおよび電子・情報工学コースの2コースに分かれ、より専門的な内容を学内・学外の講師により英語で提供し（写真2,3）、足かけ2週間のプログラムがスタートした。

2.2.4 エクスカーション



ごみステーション



上勝での活動



大阪城見学



四国お遍路 第21番札所 太龍寺



徳島大学

Tokushima University

CERTIFICATE OF COURSE COMPLETION

Summer School 2016

Name :

Institution :

This attests that the holder of this certificate has successfully completed the Course (30 class hours), offered as part of the Summer School Program 2016. The program was organized by the Summer School Committee, associated with the Graduate School of Advanced Technology and Science, Tokushima University, Japan.

August 5, 2016

Sumihare Noji,
President
Tokushima University
Japan

Yasuhiko Kawamura,
Dean
Graduate School of Advanced Technology and Science
Tokushima University
Japan

Summer School 2016: Survey

prepared by CICEE, Tokushima University

The purpose of this questionnaire is to survey different aspects of the Summer School. It will be useful to improve our organizational skill and the quality of future Summer Schools supported by Tokushima University and CICEE.

1. How do you feel about common lecture?

Excellent [45%] Good [55%] Fair [0%] Disappointing [0%]

Comment:

If it is possible, open one or two more classes for basic Japanese-learning program. In those classes, students could learn some technical terms in Nanomaterial or EE

2. How do you feel about the special lecture?

Excellent [64%] Good [36%] Fair [0%] Disappointing [0%]

Comment:

Increase in breaking time between each class would be better.

3. How do you feel about the Student Conference?

Excellent [45%] Good [55%] Fair [0%] Disappointing [0%]

Comments:

The topic discuss is relevant and meaningful

We could expect more interaction with the students from other countries.

4. How do you feel about the field trips?

Field trip 1 (Osaka)?

Excellent [45%] Good [45%] Fair [9%] Disappointing [0%]

Field trip 2 (Kamikatsu)?

Excellent [64%] Good [36%] Fair [0%] Disappointing [0%]

Field trip 3 (Shikoku Pilgrimage Route)?

Excellent [55%] Good [27%] Fair [9%] Disappointing [9%]

Comments:

- 1) Should have more activities, so participant can learn more especially Japanese's culture
- 2) It would be better that the trip to Osaka is replaced with trip to Kyoto or Hiroshima.

5. How do you feel about our arrangement?

Excellent [45%] Good [55%] Fair [0%] Disappointing [0%]

Comments:

- 1) Should have more group activities, so all participants can know each other's and much closer.
- 2) Base on tradition, Summer School provided subsidy to every participant. If hosting institution will provide subsidy next year, it might be more attractive.
- 3) It was such wonderful time in TU during the last SS. I'd really like to thank all the staff members that helped us during our stay, as you have done great job to assure us enjoyed everything in TU as well as in Tokushima city. And there are a few comments I'd like to give. As this SS program is provided to graduate students, I wonder if it is better that professors give lectures about what they've been researching or how they do their job rather than basic knowledge on specific majors. Since the program (in my opinion) is more about to experience rather than actually learn some stuff. I understand that DD students are meant to get credits from these courses, anyhow it's just my own opinion as a non-DD student. Another comment is that I think it would be better if SS can offer more opportunity to communicate with local students although language is somewhat a problem. The student conference is very good. I think more participation from local students would make it better. I think that's it. Thanks again for your excellent job, Wu san and Asada san!

6. How do you feel about Summer School 2016 in TU overall?

Excellent [70%] Good [30%] Poor [0%] Disappointing [0%]

Are there any comments, requests or advice? If you have, please write it down.

- 1) More interaction between SS students and local students
- 2) More activities with respect to Japanese culture
- 3) Try to introduce some characteristic research in order to attract more students come to study in TU

2.2.7 成果報告

本年度は、総合科学部（教育部）のサマースクールとの連携を重視し、多くのプログラムを共同で行った。例えば、8月1日、2日にわたりけやきホールで行われた Student Conference が挙げられる。常三島地区の学生も交え、それぞれの学生の出身国・出身地域の紹介からはじめ、3つのテーマ、“持続可能な社会と新しい技術”、“エネルギーと原発問題”“および”教育を考える“について調査し、公開で紹介し意見を交わし合った（写真4）。サマースクール終盤には討論した内容を総括する意味で、上記の上勝町で行われている環境ビジネスに関するインターンシップを組み込み、常三島地区の学生および外国人学生に、座学だけではない環境・エネルギーを意識したサマースクールプログラムを提供し、徳島の中の日本らしさをベンチャービジネスの視線から体験・理解させることができた（写真5）。サマースクール終了後に行ったアンケート結果からも、この上勝におけるインターンシップ体験は好評を博したことがわかった。

本年度の新たな試みとして受講生が現在行っている研究をパワーポイントで紹介する学生発表会を開催した。発表は希望者のみとしたが、ナノテクノロジーコースから6件、電子・情報工学コースから12件（うち在校生5件）の発表があった。発表後は活発な質疑応答が行われ、学生間で研究の理解を深める機会となった。先端技術科学教育部の日本人学生と外国人学生が行動を共にして意見を述べ合い交流することで、互いの文化・習慣に理解を深めつつ、環境工学に携わる高度専門職業人の金の卵として留学するモチベーションを向上させることができた。

一方、サマースクール受講生からは在校生との交流が少ないというコメントが多く寄せられた。開催時期の制限より、在校生のサマースクール参加数が少ないこともあるが、研究室見学（写真6,7）等、今後もプログラムの改善を進めていく必要がある。

先端技術科学教育部サマースクールの参加学生増加とともに、参加学生の満足度を大きくすることによって徳島大学の世界展開力強化事業の成功へと繋げたい。



写真1：開講式



写真2：講義の様子



写真3：講義の様子



写真4：Student Conferenceの様子



写真5：自然農園見学



写真6：研究室見学 ①



写真7：研究室見学 ②

2. 3 国際センターサマースクール

「徳島であおう！」

International Summer School

Get together in Tokushima!

2. 3 国際センターサマースクール「徳島であおう！」

2.3.1 目的

本サマースクールは、(1) 海外の大学から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、(2) 徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また(3) 日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い・知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りをうながすことを目的として実施した。

2.3.2 日程

期 間：2016年8月4日(木)～8月13日(土)

※8月12日(金)に修了式を行った。

参加人数：約100名

海外参加者：38名

日本人学生・一般：のべ約40名

本学留学生：のべ約20名

【中国】 14名

・北京航空航天大学 1名

・大連理工大学 9名

(引率教員1名)

・吉林大学 3名

【韓国】 1名

・韓国海洋大学校 1名

【台湾】 5名

・国立台湾嘉義大学 1名

・育達科技大学 4名

【インドネシア】 19名

・ハントゥーア大学 9名

・University of Aisyiyah Yogyakarta 10名

日程

1日目：8月4日（木）		
15:30-	徳島駅集合&ホテルチェックイン	
2日目：8月5日（金）		
9:00-11:00	徳島ビジネス体験（大塚製菓企業見学）	大塚製菓（オロナミンC・マッチ工場、能力開発研究所）
11:00-12:00	昼食	大塚製菓内食堂
12:10-12:40	徳島ビジネス体験（市岡製菓工場見学）	市岡製菓
12:40-13:30	眉山へ移動	
13:40-14:10	眉山見学	眉山
16:00-16:15	開講式	日亜会館講義室
16:15-17:50	コースオリエンテーション・大学紹介	
18:30-20:30	サマープログラム合同交流会	ザ・パシフィックハーバー
3日目：8月6日（土）		
10:00-10:20	開会式	両国橋西公園
10:20-11:30	街探！ Awaぶらり	徳島市内
11:30-14:00	昼食	西富田コミュニティセンター
14:00-14:30	街探！ Awaぶらり	徳島市内
14:30-15:30	PHOTO CONTEST 発表資料作り	西富田コミュニティセンター
15:45-17:00	発表会	
17:30-19:00	懇親会・授賞式	濱伊
4日目：8月7日（日）		
10:30-12:00	文化の森魅力発見！プロジェクト	文化の森
12:00-13:00	昼食	
5日目：8月8日（月）		
9:00- 9:15	オリエンテーション	日亜会館講義室
9:15-10:45	日本語授業（3つのレベル別）	
11:00-12:00	日本文化体験学習（邦楽）	
12:00-13:00	昼食	
13:00-14:30	日本文化体験学習（茶道）	しんくら会館
14:40	県庁移動	
15:05-17:00	副知事・議長表敬訪問、議場見学	徳島県庁

6日目：8月9日（火）		
9:20-10:20	講義（徳大の海外ボランティア）	日亜会館講義室
10:30-11:30	講義（四国遍路と霊山寺、藍染め）	
12:00-12:40	昼食	常三島又は蔵本
12:40-15:30	キャンパスツアー・研究室訪問	
7日目：8月10日（水）		
9:30-10:45	徳島文化体験 藍染め体験	藍の館
11:15-12:15	徳島文化体験 渦の道見学	渦の道
12:30-13:00	昼食（購入）	パワーシティ
13:30-14:15	徳島文化体験 霊山寺見学	霊山寺
14:30-16:00	ショッピング	ゆめタウン
8日目：8月11日（木）		
Free Day		
9日目：8月12日（金）		
9:30-12:00	振り返り&まとめ（ワークショップ）	地域創生・国際交流会館
12:00-12:30	修了式	
12:30-20:30	自由行動（阿波踊り見学）	
21:00-23:00	バス移動（神戸）	
	ホテルチェックイン	
10日目：8月13日（土）		
ホテルチェックアウト・解散		神戸

2.3.3 講義・活動概要

実施期間 2016年8月4日(木)～8月13日(土)

場所 日亜会館2F講義室、地域創生・国際交流会館 他(日程参照)

講師一覧

国際センター長	教授	金 成海
国際センター教員	教授	Gehrtz 三隅友子
	教授	橋本 智
	特任教授	内藤 毅
	准教授	坂田 浩
教養教育院	准教授	モートン常慈



オリエンテーション



街探！ Awaぶらり



文化の森魅力発見！プロジェクト



日本語授業



研究室訪問



日本文化体験学習

2.3.4 エクスカーション

日時：2016年8月5日（金）

○企業見学（大塚製薬及び市岡製菓） 9:00～12:50



○眉山見学 13:40～14:10



日時：2016年8月8日（月）

○県庁表敬訪問・県議事堂見学 15:05-17:00



日時：2016年8月10日（水）

○藍染め体験 9:30-10:45



○渦の道見学 11:15-12:15



○霊山寺参拝 13:30-14:15



Tokushima University



THIS IS TO CERTIFY THAT

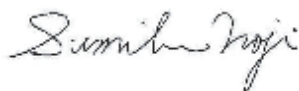
(NAME)

has completed
the course program
of

International Center Summer School

“SUMMER PROGRAM 2016”

August 4 - August 13, 2016



Sumihare NOJI, Ph.D.
President
Tokushima University,
JAPAN



Chenghai JIN, Ph.D.
Chairman
Summer Program Organizing Committee
Tokushima University,
JAPAN

PROGRAM QUESTIONNAIRE

For International Summer School at Tokushima Univ. 2016

Please answer ALL items in this program questionnaire. In order to improve our future programs, your feedback is very important for us. ※39名回答

1) Please write your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

- 【中国】大連理工大学 10名 (引率教員1名含む)
- 【中国】吉林大学 3名
- 【中国】北京航空航天大学 1名
- 【韓国】韓国海洋大学 1名
- 【台湾】育達科技大学 4名
- 【台湾】国立台湾嘉義大学 1名
- 【インドネシア】ハントゥーア大学 9名
- 【インドネシア】Aisiyah 大学 10名

2) Did this program have a positive impact for your study or future career? If yes, please write the reasons.

- ・英語と日本語のレベルアップになった。
- ・生物化学の教授に知り合えた。日本文化を体験し、もとある文化、範囲を飛び越えて各国の学生と知り合えた。
- ・日本に興味を持ち始めて、さらに日本を知りたいと思った。
- ・多くの人と知り合い、多くのことを学び、視野が広がった。
- ・日本と他の国に対して深い理解を持った。
- ・日本文化について学ぶことが出来た。また日本の人々や他の国の人達とも交流できた。
- ・大変日本語を学んだ。理工学部を見学して見通しが立った。
- ・このプログラムで、他の国の文化やコミュニケーションを学ぶことができた。
- ・日本の文化、特に時間の正確さを知ることが出来た。
- ・日本の病院のサービス良さを知ることが出来た。
- ・異なる国の人々と出会うことで、人や文化に対する見方が変わった。
- ・新しく出会う人と良い関係を築くこと、コミュニケーションを取り、相手を尊敬することを学んだ。

1) How did you think about the following activities?

- Tokushima Business Culture at Otsuka Factory and Human Resources Center and Ichioka Seika Sweets Factory

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (27名)	4 (11名)	3 (1名)	2	1

Comments:

- ・多くの生産過程が見られて、多くのことを学べて、経験出来て、とても楽しかった。
- ・先進的な技術や先進的な思考を知ることができた。
- ・企業独特の文化を体験できた。

- Networking Event: International Exchange Party at The Pacific Harbor

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (32名)	4 (6名)	3 (1名)	2	1

Comments:

- ・とても面白かった。食事はおいしくて、たくさんの学生とも知り合えた。
- ・メンバー間の交流が増やせた。
- ・楽しい夜だった。
- ・「乾杯」の意味を知ることが出来た。

- Peer Learning Activities: Tokushima Town Walk with Local People

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (33名)	4 (6名)	3	2	1

Comments:

- ・とても新鮮だった。阿波踊りについて知ることができた。多くの高校生と出会えた。
- ・面白かった、高校生は可愛かった。
- ・徳島の風景を味わい、多くの人と知り合えた。
- ・現地の人達と交流しとても楽しかった。
- ・高校生はとても親切だった。日本文化をたくさん学べた。
- ・とても楽しく、もう1日ほしかかった。

- Peer Learning Activities: Visiting Bunka-no-Mori Museum with Japanese Students

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (20名)	4 (12名)	3 (6名)	2 (1名)	1

Comments:

- ・とても楽しかった。日本文化の多くのことを知った。それから景色が綺麗だった。
- ・歴史を理解し、さらに日本人学生とも友達になれた。
- ・現地の学生と交流できとても面白かった。
- ・ツアーガイドの学生が博物館を良く理解していなかった。
- ・博物館は退屈だったが出会った学生は面白かった。とても暑かった。

- Learning Japanese Language

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (25名)	4 (5名)	3 (7名)	2	1 (2名)

Comments:

- ・楽しかった、日本語のレベルアップになった。
- ・もっと多くの形式があったらよかった。
- ・何人かに日本語を教えた。面白かった。
- ・面白く、楽しかった。でも時間が短かった。
- ・日本語の授業は、スケジュールの早い時期が良い。
- ・時々楽しく、時々退屈した。

- Japanese Culture Experience: Traditional Japanese Music

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (24名)	4 (12名)	3 (2名)	2	1 (1名)

Comments:

- ・とても面白かった。多くの違う体験が出来た。
- ・実際に演奏が見られて晴らしかった。
- ・三味線が素晴らしかった。
- ・初めて邦楽を聞き素晴らしかった。平穏な気持ちになった。
- ・音色が澄んで、調和も良かった。

Japanese Culture Experience: Tea Ceremony

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (25名)	4 (10名)	3 (2名)	2	1 (2名)

Comments:

- ・とても新鮮だった。でも足がしびれたのとお茶は苦かった。でもとても楽しかった。
- ・お茶はあまり美味しくない。靴を脱ぐことに慣れない。
- ・伝統文化の魅力を体験した。
- ・茶道はとても美しい文化であり、すばらしい経験であった。

- Visiting Prefectural Government Office and Assembly Hall

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (23名)	4 (10名)	3 (6名)	2	1

Comments:

- ・物々しい場所が好きではない。
- ・日本人のおもてなしや民主的なことが良く分かった。
- ・当地の政府を体験でき、副知事、副議長もとても親切だった。
- ・ホールはとても大きかった。
- ・退屈だったが、副知事、副議長に会えたのは光栄であった。

- Special Lecture "TU's Medical Volunteer Work in Nepal" by Prof. Naito

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (18名)	4 (8名)	3 (8名)	2 (2名)	1 (2名)

Comments:

- ・専門用語がとても多く、ほとんど聞き取れなかった。
- ・徳島大学が国際公益に貢献していることを感じた。でも形式が少し単調だった。
- ・先生は多くの人を助けている。先生はとても親切で温かい人である。
- ・医学ボランティアをしたいと思った。

- Special Lecture "The Shikoku Pilgrimage and Indigo Dyeing" by Associate Prof. Moreton

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (26名)	4 (8名)	3 (2名)	2	1 (1名)

Comments:

- ・とても面白かった。日本神社の多くのことを理解した。
- ・とても面白く、楽しかった。
- ・話がとても面白かった。一度四国遍路にも行きたい。
- ・実際に寺に行って感動した。
- ・四国遍路と藍染は幸せな気持ちになった。

- Learn the University: Campus & Laboratory Tour with Japanese Students

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (33名)	4 (3名)	3	2	1

Comments:

- ・少し面白かった。
- ・日本の大学の風景を味わい、日本の自動車も知った。
- ・実験室の長が皆中国人で、とても親切で、実験室の成果も良い。
- ・ロボットが素晴らしかった。
- ・科学の面白さを発見した。何よりも中国人の先輩たちと出会い嬉しかった。
- ・先生と学生さんたち皆やさしくていい人だった。
- ・研究室ツアーはこのプログラムで一番大切なことだと思う。時間をもっと取ってほしい。
- ・数学とロボットの知識を学んだ。

- Tokushima Local Culture Experience: Indigo Dyeing, Whirlpool Observation, Ryozen-ji Temple

Very Interesting	-----	Average	-----	Not Interesting
5 (30名)	4 (5名)	3 (3名)	2	1

Comments:

- ・渦にとっても震撼し、日本の風景を味わった。
- ・藍染と渦潮はとても素晴らしい。徳島の特色がとてもある。
- ・良い一日を過ごした。
- ・面白い！でもちょっと高かった。もう一枚作りたかった。
- ・大鳴門橋はすばらしかった。

- Tokushima Local Culture Experience: Awa Dance Festival

This is a free activity after the closing ceremony. Are you going to see the festival today?

Yes	Maybe yes	I am not sure	Maybe not	No
5 (36名)	4 (2名)	3	2	1

Comments:

- ・これに行きたかった。
- ・阿波踊りは初めてなので、とても楽しみにしている。

4) What do you think you learned the most through interactions with Tokushima people and students during this program?

- ・日本語
- ・徳島の人々はとても親切で温かく、とても助けてくださったこと
- ・英語の口語のレベルアップになった
- ・たくさんの知らない単語を多く知り、敬語や教科書中の言葉と実際使う言葉との相違点共通点を知ったことや日本人と友達になったこと
- ・外国人に対してとても熱心で、外国人との交流もとても積極的なこと
- ・日本文化。日本人から熱意と友情を感じた。
- ・丁寧で他人にやさしいこと、素直を保つこと
- ・他の人との出会いを大切にして、異文化を理解した上で尊重することが重要だと思う。
- ・皆几帳面で友好的で熱心なこと
- ・日本のことをたくさん学べ、友達も出来てとても幸せであった。
- ・態度やふるまい、文化、コミュニケーションなどがすばらしかった。
- ・徳島の人々と共通点があり、互いに理解出来ると思った。

5) What do you think you learned the most through this summer school?

- ・見聞が増えたこと
- ・日本文化を体験したこと、各地出身の友達と知り合えたこと
- ・英語と日本語

- ・外国人と交流できるようになったことや自国の国際視野も広がったこと
- ・国が違ってもお互いに友達になれること、言語が違ってもコミュニケーションが取れること
- ・他の国の習慣などを理解した。視野が広がって他の国も行きたいと思う。
- ・地元の人達と徳島まち歩きをしたこと、たくさんお互いの国のことを話すことが出来た。
- ・外国人とのコミュニケーションや外国語
- ・文化や言葉の意味、それから日本料理
- ・どうすれば時間に正確な人になれるかを学んだ。
- ・運動（いつも外歩きをしていたので）

6) Please tell us what should be improved in this program.

- ・食事は学校でしたい。見学範囲を広げてほしい。
- ・見学範囲を広げてほしい。例えば美馬市や三好市まで。
- ・日本語の授業で、日本語を既に学んでいる生徒には、日常で使う敬語をもっと教えるべき。
- ・もっと多くの国からメンバーを招聘してほしい。
- ・スケジュール表に日本語も付けてほしい。
- ・申込書にプログラムは英語で交流すると書いた方がいい。昼休みの時間があればいいと思う。
- ・研究室ツアーの時間をもっと取ってほしい。またこのプログラムは夏だけではなく、冬、春、秋もしてほしい。
- ・スケジュールが少しきつくて疲れた。
- ・医学系学生のためのプログラムを設定して欲しい。研究室訪問で時間を超過してしまった。
- ・専門別の授業を設定して欲しい。
- ・日本語の授業をもっと増やしてほしい。
- ・参加者を選考した方がいい。
- ・もっと長いプログラムにしてほしい。
- ・参加費、朝食及び昼食を無料にしてほしい。
- ・楽しかったが、見学に長時間をかけすぎている。
- ・もっと他の学生と交流したい。
- ・送り迎えをしてほしい。歩くのが大変。
- ・大塚製菓は良かったが、市岡製菓は退屈。文化の森は退屈で暑すぎる。

7) How do you think about Tokushima University?

- ・キャンパスがとても美しい、教授、学生は皆友好的。
- ・清潔、友好的、食べ物が美味しい。
- ・美しく、勤勉で、まじめな学校。
- ・とても活気がある雰囲気のある学校で、とても開放的。
- ・大学全体で親切、今後徳島大学に来たいと思う。
- ・食堂が最高。
- ・環境がいい、設備が良く整っている、食堂の料理は安くておいしい。
- ・先生と研究室がすごい。
- ・学び、住むのにいい場所
- ・人、講義がとても良い。
- ・先生が控えめである。
- ・大学と病院が近いので、学生は実習のために良い。

8) Do you recommend your juniors to attend our summer school, if we hold it next year? (Please circle)

Very Much	-----	Average	-----	Not at all
5 (31名)	4 (3名)	3 (2名)	2	1

Reasons:

- ・清潔、友好的、食堂は美味しい
- ・友好的、私たちを案内して下さった先生、教授は皆友好的で、とても親切
- ・来年また友達に会いに来たい

- ・とても良い学校、一度見に来るべき
- ・国際交流に関わる一環で、意思疎通能力を引き上げ、異国と交流できる良い機会、皆一度体験しに来てほしい。
- ・自分がたくさんのことを学んだので、後輩もまた同じようにたくさんのことを学べる体験をすると思う。
- ・徳島の人にはよくて食べ物もおいしくて景色もいい。また日本語も勉強させてもらえる。
- ・最初の経験はおもしろい、二度目はそんなにおもしろくないと思う。
- ・このプログラムは良いところがたくさんある。特に世界について私たちの学問を改善することができる。
- ・彼らは貴重な経験をし、多くの国からの友だちができるだろうと思う。
- ・妹が日本に行きたいと言っており、このプログラムは良い機会になるだろうと思う。

9) Do you want to come back to TU for your study?

Very Much	-----	Average	-----	Not at all
5 (20名)	4 (9名)	3 (8名)	2 (1名)	1

Reasons:

- ・教授が好き、教授の研究にとっても関心がある。
- ・日本の雰囲気が好きで、機会があればまた戻って来たい。
- ・とても良い学校、ここで学ぶことができればすばらしい。
- ・他の計画があつて、しばらくは留学を考えていないけれど、ここに学びに戻って来るかもしれない。
- ・徳大のロボットは大変素晴らしい。僕はソフトウェアを学びに戻って来たい。
- ・徳島で勉強すれば、将来のキャリアに役立つと思う。
- ・日本の医学に興味があり、徳島大学で学びたい。国に帰り、今回の経験をシェアしたい。
- ・徳島大学には、専門のための良いプログラムがある。
- ・学部学生として徳島大学で学びたいが、修士としては考えていない。
- ・将来のことはわからないが、徳島大学は学ぶのには良いところである。
- ・徳島大学に行くならば研究職に就くことになるが、自分は研究職に就くつもりはない。
- ・修士ではなく、学部学生のときであれば徳島大学で学びたい。
- ・もしチャンスがあるなら、日本の他の大学に行きたい。

9)-2 This question is expected to be answered by who answered 3 or 4 or 5 for the Question 9. What prevents you from studying at TU?

Reasons:

- ・しばらくは国外に出るつもりはない。でもまだ最終的には決めていない。
- ・言語。英語や日本語で学ぶことは簡単ではない。
- ・距離、お金、言葉。
- ・免許を取らないといけなため。
- ・とても遠く、親が許してくれない。
- ・徳島にはエンターテインメントがないため。

10) Overall, what do you think about this summer program?

- ・徳島での生活を享受できた。
- ・面白くて、有意義で、素晴らしかった。
- ・一番印象深かったのは、日本の食べ物がとっても美味しかったこと。
- ・色々なところを見学して面白かった。日本伝統文化も体験し、違う考えも勉強した。
- ・このプログラムは面白くて充実した毎日だったと思う。徳島を深く理解した。チャンスがあったらここで勉強したいと思う。先生たちは親切で優しい。この街も静かで落ち着いた感じがする。
- ・とても良かった。他の国について知ることが出来た。
- ・再度来たい。
- ・とても充実しました。毎日英語、日本語が鍛えられました。

- 日本文化、日本語をたくさん学び、他国の友達もたくさんで出来た。日本料理もたいへん美味しかった。
- 他国の人もたくさん知り合い、他国の文化習慣や言葉も学んだ。新しい友達ができ、つながりが出来た。それから自分の知識も改善された。
- 初めて徳島に来て、大好きになった。大自然を満喫し、また日本人と交流し、日本語と英語にも強くなった。他の国の人も友達になれとても得難く充実した毎日だった。料理もおいしく、また来年ここに来たい。
- 二度目の来日だった。今回は深く文化を体験した。とても楽しかった。また他の国の人も知り合い、日本人学生とも交流できた。毎日行事が多く豊かでとても充実していた。
- 家族から聞いたり、写真で見たりした日本はとても美しかった。

We hope you enjoyed this program and learned a lot at Tokushima.

Thank you for your cooperation.

2.3.7 成果報告

2016年8月4日（木）から8月13日（土）にかけて、徳島大学国際センターはサマースクール「徳島であおう！」を開催した。本サマースクールは毎年継続的に行なわれており、今年度は4カ国（中国、インドネシア、台湾、韓国）からの留学生38名、日本人大学生・地域住民約40名、本学留学生約20名の合計100名が参加した。

【本サマースクールの趣旨・特徴】

昨年度同様、次のような目的でサマースクールを開催した。(1) 参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規留学生として学んでもらう。そのために(2) 本学での学習や研究、ならびに徳島の文化について理解してもらう。また、(3) 日本人学生、地域住民と交流することで、日本人と日本文化を理解してもらう。(4) 様々な国からの参加学生がお互いに出会い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへ振り返りをうながす。さらに、(5) サマースクールに参加した日本人学生、地域住民の国際・多文化理解を促進し、本学ならびに徳島地域のグローバル化をすすめる。

先端技術科学教育部のサマースクールが大学院博士後期課程に入学する学生をリクルートすることを念頭に置いて開催されている一方、国際センターのサマースクールは将来本学の大学院博士前期課程に入学する留学生、交換留学生として本学で学ぶ学部学生をターゲットとしている。そのため、本サマースクールに参加した学生が学部や大学院に入学すること、そして「徳島にまた来たいと思う」気持ちを育むことを念頭にプログラムを企画・運営した。

国際センター主催のサマースクールの目指したものと内容は、次の4点である。

1. 徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供

国際センター教員による「徳島と徳島大学の紹介」及び「海外での医療ボランティア」の講義、常三島・蔵本地区での「キャンパスツアー・研究室訪問」、教養教育院モートン常慈准教授による「徳島の遍路文化、藍染め」に関する講義を行った。

英語での上記講義に加え、参加者の専門に合わせた研究室訪問を行い、参加者は本学の最先端の研究を直接見聞きし、ユニークな研究や教育活動について知ることができた。本プログラムに参加する学生の専門分野は多岐にわたり、日本語学、経済学、歯学、栄養学、看護学など様々な分野について興味・関心を持っている。そのため、今回は総合科学教育部、栄養生命科学教育部、口腔科学教育部、保健科学教育部、先端技術科学教育部に研究室訪問の協力を依頼した。

参加者が将来本学で学ぶためには、「何を学ぶことができるのか」といった学術分野に関する情報と「どの教員の研究室で学ぶことができるのか」といった研究分野や研究室に関する情報を得ることは非常に重要であり、今回の「徳島大学紹介」や「研究室訪問」でこれらの情報を具体的に提供することができたと考えている。

2. 徳島・日本文化、そして日本人を理解するための学びの機会の提供

今回のプログラムでは、地域や本学サークルの学生の協力による茶道体験、藍染め、大塚製薬工場などの企業見学、徳島市での阿波踊り見学、「とくしま異文化キャラバン隊」とのコラボレーションによる「徳島まち歩き」、県庁・県議会場の見学や副知事への表敬訪問など、多様な文化理解

と交流の機会を提供し、参加者には非常に好評だった。研究室訪問で本学の日本人学生・外国人留学生と交流したり、「まち探検」や文化の森での活動で地域の人々や高校生と交流したり、参加者は多くの時間「生の」日本人と接することができた。徳島や日本の文化を知っただけでなく、自分たちが実際に歩き体験することで日本の街を知り、日本人の行動や感情を理解してもらってきたと考えており、この点は非常に高く評価できるだろう。

3. 日本人学生、地域住民、そして大学の国際化

日本人学生や地域の人たちにとっても、本サマープログラムは有益なものであったと考える。特に、本学の日本人学生や地域の高校生にとっては、年齢の近い多くの外国人と接する機会は貴重で、彼らの国際理解や異文化理解をすすめることができた。

外国人と一緒にまちを歩いたり博物館を見学したりして、日本人学生や地域の方は外国人の目線や考えを知ることができたであろう。大学の国際化に加えて、地域の国際化を支援することも大学の役割であり、本プログラムはこの点でも貢献できたと考える。

4. 世界的なネットワークの形成

プログラム参加者（海外からの学生と日本人学生、地域の人々）がお互いを知り、今後も連絡が取り合えるようなネットワークを形成する機会となった。

他部局のサマープログラムとの合同交流会を開催したが、そこでは他のサマープログラムの参加者や日本人学生、地域の人たちや高校生、大学教員・職員と交流し、参加者にとって国を超えたネットワークを形成することができた。

3 総括

徳島大学においては、本年度は総合科学部サマープログラム、先端技術科学教育部サマースクール、及び国際センターサマースクールの3コースのサマープログラムを実施した。本学は、3コースのサマープログラムを実施するようになってから4年目になるが、各コースのプログラム実施時期は全学の委員会である「サマープログラム等実施委員会」において検討し、昨年度と同様、全プログラムの中心となる時期を7月下旬-8月初旬に合わせた。その結果、3コースの出席者全員が参加できる「合同交流会」を8月4日に実施できた。また2コースで徳島地域見学旅行を合同で実施できた。3コースのプログラム全体を合わせて海外の協定校等から合計77人の学生と引率教員が本学を訪れた。本学からも約80人の学生がサマープログラムに参加し、訪問学生らと交流を行った。

総合科学部サマープログラムと国際センターサマースクールは学部学生を対象とし、先端技術科学教育部サマースクールは学部高学年または大学院生を対象としたプログラムを提供している。それぞれのプログラムの中で実施される英語による授業や研究室訪問、キャンパスツアー、合同交流会等により海外からの学生は徳島大学を知ると共に茶道や和楽器、藍染めなどの日本文化を体験することができた。また、県内企業訪問や文化体験等を通じて日本の伝統文化や徳島を知ることができた。海外から参加した学生は徳島や日本に対する理解を深め、徳島や日本を身近に感じることもできたものと思われる。一方、本学から参加した日本人学生にとっては海外に関心を持つ良い機会となり、グローバル化の推進にも一定の効果があったものと推測している。さらに、サマープログラムの学生募集を通じ、徳島大学を海外にアピールすることができた。

海外から参加した学生の中には、本学への留学を希望している学生もいた。このプログラムのねらいは海外からの参加学生が本学を体験し、将来、本学への本格的長期留学に繋げることにある。巻頭言にも記載した通り、本学のサマープログラム・サマースクールは先発部局で9年、後発部局でも4年になる。しかし、プログラムの効果の定量的検証はこれまでなされていない。これまでもサマープログラムへの参加をきっかけに本学への留学を決定した学生もおり、一部、優秀な留学生の確保につながっている。アンケート等を実施し、これまでの成果を検証するとともにより効果的な企画を策定する必要がある、またその時期に来ていると思われる。

なお、海外からの参加者からはこれら3つのサマープログラムについて、高い評価を得ており、次年度も引き続き実施する予定である。

4 今後の課題とまとめ

【サマースクール全体としての今後の課題】

- ① 大学全体の取組みとして、統一性のあるコース設計
- ② 交流行事等のイベントの合同実施
- ③ 期間や規模等、サマープログラムの定義の明確化
- ④ 担当教員、事務職員の業務量の軽減
- ⑤ 関係部局からの経費、業務の支援
- ⑥ 参加者受入れ国の拡大
- ⑦ 参加者が滞在する快適な宿舍の確保
- ⑧ 天候不順の際の対応、代替案の準備

【総合科学部サマープログラム】

(1) 実施体制

当初は少人数の教員で実施してきたサマースクールであるが、今年度は授業担当教員が 12 名まで増え、授業、実習、生活全般などの面で関わるのが可能となった。平成 28 年度に改組が行われ、現在の協力教員・授業担当教員が 3 学部と教養教育院の 4 部局に分散した。これまでの連携を今後も継続し、コース間の協力を密に行うことが重要であろう。

その他、宿泊先の安定的な確保について、サマープログラム各コースの需要を取りまとめて、国際課の支援をお願いしたい。また、各見学地への移動手段についても、徳島では公共交通機関での移動に限界(無理)があるため、国際課でコース間共同の移動手段確保の援助をお願いしたい。

この研修を体験した本学学生の多くが、春季研修にて台湾を訪れる。相互互恵の精神に基づく国際交流が実現できているので、今後も続けていきたい。

台湾からは、多くの学生が参加を希望している。国際センターのプログラムと合わせて、今後できるだけ多くの希望者を受け入れてゆきたい。

(2) 協定・MOUに関して

MOUの有効期限は 5 年となっていて、2018 年以降に改訂の必要がある。学生の参加・受講体制を確立するためにも学生交流協定を結ぶ必要がある。

(3) 初級の日本語授業について

今回、日本語の授業を設けたが、留学生の日本語のレベルは多様であり、単一の授業ではカバーできないものとなった。個々のコースごとに準備するだけでなく、徳島大学サマープログラム全体で提供される授業を提案していく必要がある。

(4) 本学に在籍する学生について

授業やエクスカッションに参加した本学に在籍する学生の満足度は非常に高い。しかしながら、参加者数がそれほど多くない。これは在籍学生の参加者は共通教育を受講する 1 年生が多く、サマープログラムの開催時期と、試験期間が重なることが敬遠の要因である。より多くの在籍学生の参

加を促すため工夫が今後の課題である。

【先端技術科学教育部サマースクール】

昨年度まではサマースクールに参加する学生が使用可能な JASSO 留学生交流支援制度短期研修・研究型プログラムが採択されたことから海外から約 50 名の参加があったが、本年度は採択されなかったことから海外からの参加者は 28 名であった。サマースクールの開始開催期間は夏休みであり航空運賃が 1 年の中で最も高い時期であり、参加する外国人学生は、主に中国、台湾、マレーシア、インド等発展途上の国がほとんどであることを考えると、学生の渡航費・滞在費等の支援が必要であり、そのための安定した予算確保が求められる。

先端技術科学教育部サマースクールの参加学生は、全員が大学院生であり、それぞれが母校において専門分野の研究を行っている。そこで本年度は、参加学生が行っている研究を発表する Student Presentation セクションを設けた。研究内容に関する活発な質疑応答が行われ、お互いの専門に関する理解は深まったが、時間的制限に加え、限られた人数の参加学生間では、研究内容のオーバーラップが少なかった等の理由により、セクション後も継続的な意見交換等を行った学生は決して多くはなかったように思われた。本学においても関連の深いオーバーラップの多い研究を行っている学生もいると思われるが、実施時期が前期授業の試験期間であり、日本人学生の受講者数が少なかったことから、今後は関連する研究分野の学生と交流できる機会を増やす必要がある。

最後に、サマースクールの実施体制について述べる。現在、サマースクールに積極的に協力頂ける学科（専攻）がある反面、協力を仰ぐのが難しい学科（専攻）も存在する。そのためサマースクールで開講する専門分野が一部の領域にとどまっている。ただし、協力頂いていない学科（専攻）においても、個人としては積極的に協力したいと考えている教員も多く存在する。サマースクールの参加学生が、その後 DD コース学生として入学する例も少なくないことから、今後はより広い専門分野の海外学生が参加できるサマースクールの開講が実施できる体制の構築が必要である。また、他のサマースクールとも連携を図り、専門的な体験は先端技術科学教育部・理工学部が担当する代わりに、徳島大学で実施されるサマースクール申込窓口の統一や、日本文化体験あるいは企業見学については国際センターが担当するなど、これまで以上にサマースクール運営業務の効率化を図るべきだと考える。

【国際センターサマースクール】

1. 日程・期間の課題

台風などの天候による計画変更もなく、今年度はすべての日程を予定どおり行うことができた。徳島で本場の阿波踊りを体験してほしいと考え、日程を 8 月 12 日までにしたが、この日は徳島で宿泊ができないため、夜、バスで神戸へ移動し翌日解散した。阿波踊りに関しては、100%の学生が「よかった」と回答していることから、今後も阿波踊りを鑑賞できる日程で行っていきたい。

今回は予算の都合上、参加費を徴収した。運営費の中でも宿泊費が多くの割合を占めており、今後の予算によっては、プログラム実施期間の長さを検討する必要がある。

今回のプログラムの参加者の国が4か国と少なかったのは、参加費を徴収したためと募集時期が少し遅くなったためだと思われる。来年度はその年の2月末までには協定校への参加募集の連絡を行いたい。

2. プログラムの内容の充実

理工学部や総合科学部のサマープログラムとは異なり、国際センターのサマースクールは学生の専門の学習を提供することはせず、徳島大学や学部の紹介、徳島・日本の文化理解や日本人学生・地域の人々との交流のための活動を行った。それに加えて、四国遍路や藍染めに関する講義、本学の海外医療ボランティアの講義、またレベルを三つに分けた日本語の授業も行い、それらは概ね好評を得た。

参加学生のアンケートでは、専門の授業や日本語学習の時間を増やしてほしいという声もあるが、参加者の専門がバラバラであり、日本語のレベルも個人によって大きく異なるため、現状のプログラムの内容を大きく変更することはできない。プログラム最終日には、グループに分かれてプログラムを振り返り、自分たちが得たことを共有するワークショップを行ったが、来年度はプログラム開始時からプログラムの目的や内容をしっかり説明し、参加者が自発的にまた積極的に「学び」を行えるような形にしていきたい。

参加者の中には英語でのコミュニケーションが十分にできない学生もあり、英語・日本語での指示が伝わっていないと思われる場面が多くみられた。今後は、ある程度の英語運用能力が必要であることを募集時にしっかり明示する必要があるだろう。

5 担当者一覧

サマープログラム等実施委員会実施委員長

金 成海：教授・国際センター長

サマープログラム等実施委員会実施委員

金 成海：教授・国際センター長

田久保 浩：教授（総合科学部）

勢井 宏義：教授（医学部）

田中 栄二：教授（歯学部）

山崎 哲男：教授（薬学部）

安澤 幹人：教授（理工学部）

音井 威重：教授（生物資源産業学部）

福井 清：教授（疾患酵素学研究所）

橋本 智：教授（国際センター）

総合科学部サマースクールプログラム

大橋 眞：教授（大学院総合科学研究部）

齊藤 隆仁：教授（大学院総合科学研究部）

田久保 浩：教授（大学院総合科学研究部）

佐藤 高則：准教授（理工学研究部）

佐藤 征弥：准教授（大学院生物資源産業学研究部）

山城 考：准教授（大学院生物資源産業学研究部）

村上 敬一：准教授（大学院総合科学研究部）

久田 旭彦：講師（大学院理工学研究部）

先端技術科学教育部サマースクール

森賀 俊広：教授（大学院理工学研究部）

安澤 幹人：教授（大学院理工学研究部）

呉 雨濃：助教（大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター）

浅田 沢：大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター事務補佐員

国際センターサマースクール「徳島であおう！」

金 成海：教授・国際センター長

Gehertz 三隅友子：教授（国際センター）

橋本 智：教授（国際センター）

内藤 毅：特任教授（国際センター）

坂田 浩：准教授（国際センター）

事務局

小林 秀樹：国際課長

大田 朋哉：国際課副課長

松尾麻里子：国際課国際交流係長

北村 友香：国際課国際交流係事務補佐員

サマースクールTシャツ

2012年、第一回国際センターサマースクール「徳島であおう！」の開催に際し、参加者や日本人学生サポーター、教職員の一体感を高め、互いに協力して国際交流を推進することを目的に青色のTシャツを作製した。キャッチフレーズ「徳島であおう」は、①徳大生も含めた徳島の人にあう、②参加した各国の仲間にあう、③自分を見つめ直して新しい自分にあう、の意味が込められている。このTシャツのバックの文字は国際センターの地域サポーターでもある書道家の作で、以後、毎年国際センターサマースクールで使用されていたが、2015年からは、各コース色違いのTシャツを作製することとなった。

参加者の良き思い出になると同時に、帰国後にもこのTシャツを手にとり徳島大学への関心を深めてくれることが期待される。



国際センター（ブルー）



総合科学部（ライトブルー）



先端技術科学教育部（ブライトグリーン）

バックの文字「徳島であおう」は書道家の吉野美苑（吉野美保）氏（「美苑書の会」主催者）による作

徳島大学サマープログラム 2016 報告書

編集発行： 徳島大学サマープログラム等実施委員会

徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地

088-656-7079

発行年月日： 2017 年 3 月 31 日

